

2018佐賀県知事選挙 候補者アンケート

回答者 いまだ 真人

1 福島第1原発の事故は収束していると思うか

②収束していない

(その理由)

収束とは程遠く、事故の真ただ中にある。溶け落ちた核燃料の位置や状態は把握できておらず、事故原因が正確につかまれていない。破壊された原子炉建屋への地下水などの流入により、核燃料から溶け出した放射性汚染物質を含む汚染水が増え続けている。

(2) 政府が被爆許容量について、福島だけ年間20ミリシーベルトに引き上げたことについて

②上げるべきでない

(その理由)

どこに住んでいても、被爆許容量は年間1ミリシーベルトでなければならない。福島では年間1ミリシーベルトを上回り、暮らしていけない事態になっており、20ミリシーベルトに引き上げざるを得なくなった。政府のごまかしの手段である。人体への影響を考えていないとさえ思う。

(3) 福島第1原発でたまり続ける汚染水の海洋放出をどう思うか。

②海に流すべきでない

(その理由)

海洋汚染で漁業への影響が広がる。また、海の生き物を通じて複合汚染が広がり、生態系に異常をもたらす。地球環境も悪化させる。

2 玄海原子力発電所について

(1) 県民の多くは再稼働に反対。2017年4月24日の知事の再稼働同意についてどう思うか

②撤回する

(その理由)

どの世論調査でも再稼働反対が賛成を上回っている。30キロ圏内の自

治体でも反対しており、安全だという保障はどこにもない。

(2) 使用済み核燃料のリラッキング、乾式貯蔵施設建設について

②反対

(その理由)

このまま稼働すれば、使用済み核燃料が増え続け、これまでの水で冷却するプールは満杯になり、原発を運転できなくなる。運転を続けるために考え出されたのが、乾式貯蔵である。使用済み核燃料をガラスで固形化し、鋼鉄製の容器囲み、空気で冷却するというもの。高温だから水で冷やさなければならなかったものが、空気で「冷却」できるわけがない。核の最終処分場は未定の中、この貯蔵施設を許せば、実質、佐賀県が核の「ゴミ捨て場」になる。

(3) 周辺自治体の同意権は必要だと思うか

①必要

(その理由)

県と玄海町だけの問題ではない。福島事故を見れば明らかなように、ひとたび事故が起きれば、周辺自治体も大きな犠牲を強いられるため。

(4) 現在の避難計画では放射能被爆が前提になっている。このような避難計画で、県民の暮らしと健康を守ることができるか。

②できない

(その理由)

完全な避難計画をつくることは無理である。放射能被爆を前提とするような原発は運転すべきではないし、「原発ゼロ」に。

(5) 玄海原発事故時の安定ヨウ素剤の全県民への事前配布はについて

①全県民に配布すべき

(その理由)

事故が起きた時、風向きなど気象条件によって放射能汚染規模は予想できない。5キロ～30キロ圏内だけの問題ではない。立地県として、全県民に配布する必要がある。